

風 韻

第15号

(一九七五年度)

神戸大学風韻会

風 韻 第 1 5 号 目 次

- ◎ 五十年の体験(その八) ----- 師匠 宇治 正夫 -----1
 ◎ ある経験より ----- 会長 荒川 祐吉 -----2
 ◎ 先輩登場

勸進帳礼讃 -----	前会長 藤井 茂 -----	4
嶋立沢(しぎたつきわ) -----	昭和 4 年卒 安村慶次郎 -----	5
むかしがたり -----	昭和 1 5 年卒 虎川 松郎 -----	6
思いつくままに -----	純 久 -----	8

- ◎ 誌上研究室
 能楽堂の2階席と僕 ----- B 2 4 加藤 久佳 ----- 10
 面 ----- P 2 6 長田 晴子 ----- 10
 私の観能記 ----- J 2 3 寺本 博行 ----- 11

- ◎ 私のお国自慢 ----- 14
 ◎ 自由投稿
 風韻会アメーバ論ー1つのサークル ----- E 2 3 浦田理一郎 ----- 16
 高校一年の頃の思い出 ----- E 2 5 伏見 正章 ----- 17
 二宮金次郎の教え ----- 黒 博之 ----- 17
 ◎ 二人ぼっち ----- 19
 ◎ 学連加盟校からみた風韻会の外貌 ----- 20

- ◎ 49年度活動報告
 幹事学年を終えて ----- 幹事 5名 ----- 22
 学連に出て ----- E 2 5 岡崎 啓子 ----- 23
 E 2 5 香西 千秋 ----- 23

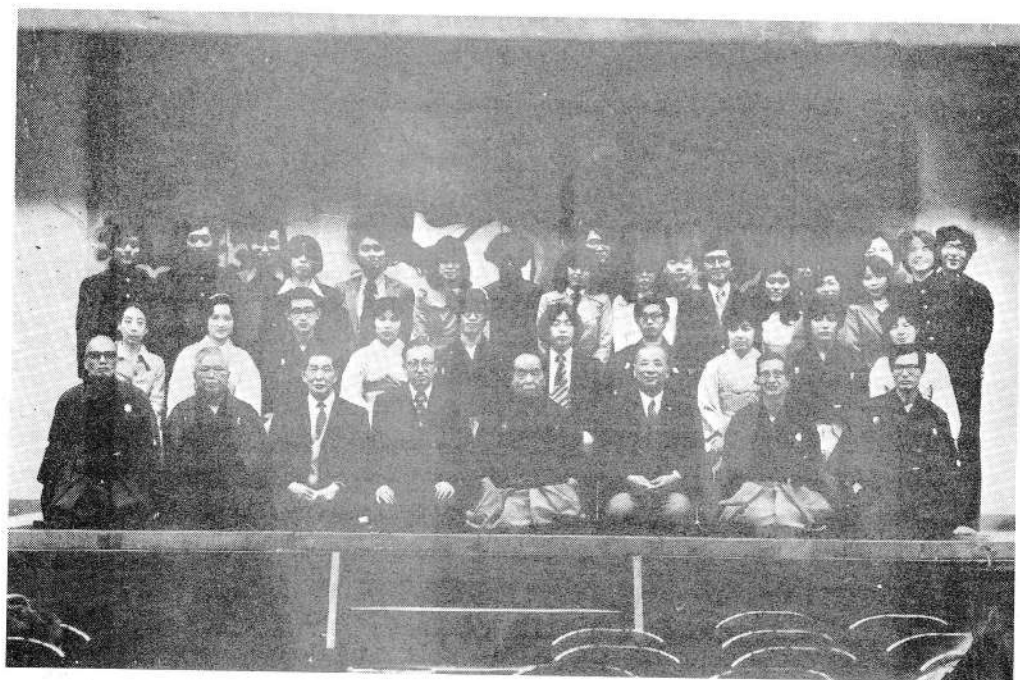
- ◎ あしあと 昭和49年度 ----- 24
 決算報告 ----- 会計 山崎喜美子 ----- 25
 ◎ 幹事長就任にあたって ----- E 2 5 伏見 正章 ----- 26
 ◎ 新役員紹介 ----- 26
 ◎ 昭和50年度主要活動予定 ----- 26
 ◎ 風韻会名簿 ----- 28
 ◎ 名簿変更通知 ----- 28
 ◎ 伝言板 ----- 29
 ◎ 編集後記 ----- 30



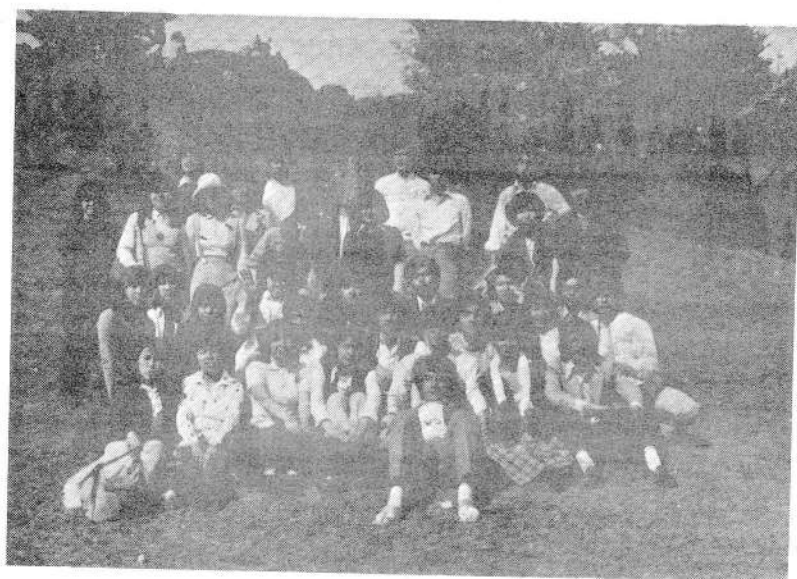
実盛 …… 宇治正夫

昭和49年10月10日

於：大槻能楽堂



昭和49年歓送誼会（於：神大学館ホール）



夏合宿（於：蒜山）

五十年の体験（その八）

師匠 宇治正夫

一、

私の謡の体験を通して切実に感じることは「調和」ということである。具体的には謡の会などでシテ、ワキなどの役と役との間の調和はもとより、役と地との調和、さらに地についても地頭との間の調和がないと折角の一曲がこわされてしまうことになる。

調和のためには、各自が力一ぱいに謡うというだけでは不十分で、その曲柄を知り、曲の位に應じる必要がある。その上でそれぞれの役柄をわきまえ、シテはシテの位、ワキはワキの位を保ちながらお互に調和をはかるように努めねばならない。こうした役にもまして大切なことは地の調和で、地頭について一糸乱れぬ統一が必要で、地頭より先きに出たり後まで引つ張ったりすることが調和を乱すのはもとより、音量や高低についても地頭に密着して離れない努力が必要である。

二、

かつて十年程稽古を休んでいた人が入門されたことがある。休んで居た間も自分で大声で謡っておったということであるが、自分で謡うのを怠らなかつたとは感心であるが、曲柄も拍子も一切頓着しない我流に陥っていて、これを正しい謡に戻すのには初心の人に教えるよりも遙かに時間がかかることを知った。謡ではひとりよがり

は許されないのである。相当に稽古を積み、囃子までも稽古した人でも、地に座ると声が小さ過ぎたり大き過ぎたりして全体の調和からはみ出す場合が少なくない。小さ過ぎたのは地頭の助けにならぬと云う程度であり問題はないが、大き過ぎる方は明らかに地頭の邪魔になり全体の調和を乱すこと甚だしい。とくに謡に自信の強い人にこういう例が起り勝ちで、そういう人ほど、常に反省し、曲柄や役柄を考える以上に調和について心を配り、地に座った場合は、調和からはみ出さない工夫を重ねる必要がある。

三、

謡は何年稽古したから卒業というものではなく、稽古を初めた時はもとより、稽古を積み積むほどむつかしくなるともいえる。何よりも大切なことは正しい謡を謡うことで、正しい謡を通じて不断に自分が反省され、また自分の反省を通じて正しい謡が謡えるようになる。そこで正しい謡を謡うために皆さんにお勧めしたいつぎの様な事を挙げておこう。

- 一、毎日十分程度は必ず練習すること
- 二、曲柄や曲の位を知ること
- 三、拍子を知ること
- 四、他の人と同吟する機会をもつこと

その他簡条書きにすればいろいろあります。毎日十分間心を力をこめて練習する事に依って段々と所謂底力が出来て参ります。これを表にのみ現わすのではなく、時に応じ内へ取る事に依って奥床しさを

あ る 経 験 よ り

「学問の道はきわまりない」とか、「芸の道は究めれば究めるほど奥深いものだ」とか、よくいわれます。

しかしこのことは、言葉としてはよくわかっていても、心で、あるいは、体で、本当にわかるようになるのには、やはり、それなりに、その人の努力や修業の積み重ねが必要なのです。

本職とする「学問の道」でも、いまなお、高嶺のふもとをさまよひ歩き、「路多うして道窮まりなき」ことを嘆いているような私が、このようなことをいろいろあげつらうのは大変おこがましいことなのですが、宇治先生に師事して、お稽古していただいている間に、「なるほど芸の道は深いものだ」ということを体得し得、あるいは、道の深さをかいまみたと自分で思った個人的経験をのべてみたいと思います。

あれは、大槻十三先生が御在世中でしたから昭和三十五、六年頃のことと思います。当時、宇治風韻会の社中のある方が、大槻先生のワキで「恋重荷」を、大槻能楽堂でお披露になることとなり、私

を増し芸の格調を高め引いてはその人の人間性をも高めることとなる。これこそが芸術と人間性の調和点で謡の稽古もこの至高の境地を目ざしての不断の修練の道ということが出来る。

会長 荒川 祐吉

がツレを仰せつかりました。未熟者の私のこと、その役の重要さや格といったものについて、まるで何の理解もありません、曾根崎にありました稽古場で、お稽古をつけていただきました。

ツレの謡うところは、唯二ヶ所、そのうち特に「恋よ恋、我が中空になすな恋、恋には人の死なぬものは、無慙の者の心やな」が問題です。しかもこれは、ワキ十三先生の「ことば」が終って、それについて謡うところですし、おまけにこのツレは「女御」という最も位の貴い女性なのです。今にして思えば、全く、盲蛇におじずのたとえそのままだったわけですが、宇治先生のお心遣いはさぞ大変なものだったろうと思われれます。

お稽古場では、何度も何度も、この一句だけを謡わされました。「それではお婆さんだ。」「それでは百姓女と同じだ。」「まだ品がない。」「とその度ごとに御注意を受け、しまいはどうしてよいか判らなくなり、泣きだしたい気持ちになりました。それでも結局不満足ながら一応認めていただき、さて、会の当日になりました。

もう一つの難問は、ワキの「ことば」をうけてツレが謡い出すときの呼吸です。間伸びしてはいけなしいし、あまりにすぐに出てもない。どうしようかと内心ビクビクものでした。けれどもワキの「ことば」は誠に堂々として、しかもいささかの乱れもなく、全く自然にツレの謡をはじめることができました。この時の印象は、いまだに忘れることができません。

このような体験から、私は二つのことを学びました。第一は、文字通り、芸の道は究まりないものであり、修業すればするほど、奥深く、これで行止まりということはありえないこと、第二は、秀れた芸域に達せられた方は、そのことによって、未熟者の能力を啓発し、その芸を引上げる力を持つておられること、換言すれば、秀れた芸は、それと関わり合いを持つすべての者の水準を向上させる強い影響力を持つことです。

第二の点については、つい最近もこんな経験をしました。ここ十年ほど、私にとつては、公私業務多忙で、定期的にお稽古を受けることができない状態が続いています。したがって、会の申し合わせで社中の方と謡い、いちいち先生から御指導をうけることはあっても、昔のように、先生と一対一で向いあつてのお稽古をいただいているのです。幸いなことに、昨年末、先生のお宅で全く久しぶりに「弱法師」のお稽古をつけていただく機会が与えられました。先生の前に出て、直接お教えをいただくと、どういふわけか実力以上に謡えるような気がします。この時も予想外に謡え、先生から「結構です」と仰つていただき、私自身も嬉しく充実した気持ちになりました。

全く個人的な経験を書き連ね、お恥しい次第ですし、このような事柄から、読者の皆様が、何をお感じとりになるかは様々でしょう。私自身は、このような経験を通して次のように考えるようになっていきます。

先の第一点と第二点は結局「道を究める」ことの二側面であり、かつ第二点は、その対外的成果の一つとも考えられましょう。そして道は窮まりなく、常に稽古を重ねることによってのみ、そのことを自覚し、又自己を充実していくことができるのでしよう。「良き師の導きのもとに不断の精進を重ねる」こと以外には「道を究める」方途はありえないと、いまさらのように痛感します。

終りに、このことを逆の形で言っておきましょう。

稽古しなくなると、道の窮まりなき、奥行の深さが見えなくなり、袋小路の行止まりに迷い込んで、しかもその行止まりを最高の境地だと錯覚してしまいます。こうなると人間おしまいです。このことは、学問の道にも、また芸術の道にも、共にあてはまることではないでしょうか。



先輩登場

勸進帳礼讃

前会長 藤井 茂

一、この間の風韻会の秋の大会（十月十八日大槻能楽堂）で、段野治雄君の勸進帳の披きがあり、わたくしも同山に出て、シテの精魂をこめた謡いに心が洗われる思いがした。わたくしにもこのように若さと熱情を打ちこんで勸進帳を謡った日があったと、なつかしい思い出にひかれて、古い番組綴をめぐってみた。

二、わたくしが勸進帳の許しをえたのは昭和十四年三月のことで、免状には二十四世宗家観世左近の花押が印してある。わたくしが宇治先生に師事したのは昭和七年四月であるから入門後七年ということになる。

手許にある番組の面で、初めて安宅のワキと記録されているのは、昭和十二年五月九日、神港倶楽部で催された風韻会二十周年記念大会で、シテは吉岡嘉兵衛氏、判官は宇治先生の御次男正人さんであ

った。あの広い（今はないが）見所を埋めた聴衆に上気しながら、無我夢中で謡ったことと、当時まだ幼かった正人さんの可憐な中にしっかりと子方ぶりに感動したことを覚えてい

二度目は宇治先生のシテに対してワキを勤める光栄を与えられた。昭和十六年三月、西宮北口の甲風倶楽部であった。三度目もワキでシテは諫山勝保氏、昭和十八年七月四日、神戸能楽会館、風韻会二十五周年記念と神戸商大（旧制）十三回生卒業記念を兼ねた大会で、諫山氏のほかに前田一二、小杉岩藏、松田幸次郎、大井徳藏等の諸氏も卒業生として名を列ねている。戦局次第にきびしく、やがて出征する人々を送る会とて、送る者も送られる者も何時またこうした会がもてるかと一刻を惜んだことである。

三、勸進帳の披きは昭和二十一年十一月二四日、神戸経済大学（旧制）風韻会主催の大会で大学講堂が会場であった。ワキは前田一二氏、無本で一生懸命謡ったことを覚えている。当時終戦日なお浅く、神大風韻会復活後の最初の大会であったと思う。宇治風韻会の社中の応援参加もあり、諸事乏しい中にもかかわらず本格的な用紙に番組が刷られているのも印象的である。披きではあったが、饅頭一つ配ることも出来ない時代の披きであった。

引き続き昭和二十三年十二月、大慈能舞台での風韻会の大会で安宅のシテに出してもらった。ワキは同じく前田一二氏であった。社中の会で改めて披きをさせて頂いたわけである。この時も無本であった。

その後幾度かの社中の会で安宅のワキを勤めさせて頂き、お披き

をされるシテの方々の緊張を隅に坐っていて胸深く感じ、その時々
に深い感動を重ねたものである。

昭和四七年三月二六日、わたくしの神戸大学定年退官祝賀のため
に松泉館で会を開いて下さり、思い出の勸進帳の役を与えられた。
ワキは国重猛氏、判官は志岐佳代嬢、同山は神戸大学風韻会の学生
諸君で、国重氏は学生時代から謡の友、神戸大学を去るに当っての
この上ない記念の一曲であった。この会を発起して下さった宇治先
生、井口先輩、荒川教授をはじめ御参会の凌霜人、学生、宇治風韻
会社中の皆様の温かい心に感謝に溢れながら謡わせて頂いた。

四、

安宅。勸進帳が人の心を捉らえるのには、史実のもつ悲劇的要素、
登場人物の多彩、手強い演技の奥にひそむ細やかな人の情等々色々
の理由がある。同じ史実にもとづく正尊・起請文との違いもこの辺
にあるのかも知れない。

しかしながら、こうした理屈は一切抜きにして、
わたくしは勸進帳が好きである。それはあの豪快
にして淀みのない曲柄がわたくしの性分や音声に
合っているためかも知れない。それにもましてわ
たくしには勸進帳を謡った折々の感動が、心の中
で共鳴するのを覚える。わけてもあの戦時のきび
しい状況の下で折りをこめて謡った思い出は終生
忘れえないであろう。

勸進帳は大曲である。安宅の役に出る度に宇治
先生からきびしい御教授に預った。力を入れると



声が出ず、声をはり上げると力が抜ける。力を入れ声を張って謡い
通すには道中が長すぎる。需要と供給の不均衡を均衡をめざして成
長する経済の過程に似ているともいえようか。さらには、得意と失
意の交錯する中で、心の安定を求めて苦悩する人生にも通じるもの
がある。ともあれ、わたくしはまだ謡においても人生においても修
業途上の未熟者である。ゆるみなく安宅一曲を謡い通せるまでの修
練が、わたくしの人生の仕上げにも通じるものであることを悟ると
ともに、こうした修練の場として謡をもち、宇治先生に師事しえて
いることをこの上もなく仕合わせに思っている。(四九、十一、三十)

鴨立沢(しぎたつさわ)

昭和四年卒 安村 慶次郎

大磯の町を貫く国道一号線を東京方面から行って左、即ち海岩側
に鴨立沢の跡が小公園になって残っている。今は鴨立庵(でんりゅう
あん)他一の建物が保守不充分的のままに残っているだけの、全体
に荒れ果てた感じの公園であるが、周囲の町屋から流れ出た汚水の
注ぐ相模湾の紺碧の浜めは捨て難い。往昔は小さな清流が海に注ぐ
河口の中洲が沼沢であって、秋は鴨の他に鴨や鶉も群れて餌を漁っ
たものであろう。

西行がこの鴨立沢に杖を停めたのは西海に平家が亡んだ二年後の
文治二年(一一八六)彼の六九才の時の二度目の奥州行の途次であ
ったと思われる。老年に及んでのこの大旅行は東大寺再建勸進の使

命を帯びてのものであった。この鴨立沢での詠歌はかの三夕の一で
心なき身にもあはれはしられけり

鴨立沢の秋の夕暮

(新古今、巻四)

であり、小宮義和氏の「榴隠独語によれば「御裳濯川歌合」では俊成(千載集撰者)が負(不佳作)の制定をしている。しかし作者も撰者も共に古今の歌聖であり、私共風俗の批評の限りではない。

西行は大磯から鎌倉に出た。幕府の公約記録「吾妻鏡」の文治二年八月十五日の条に「鶴岡八幡宮の鳥居の辺で頼朝が老僧を見かけ、梶原景季に訊かせて西行とわかったので邸に案内させ、自分は八幡宮に奉幣の後に帰邸して、歌道、弓馬の道を尋ねたが、西行は藤原秀郷以降九代嫡流の兵書は出家の折にみな焼いてしまつて何事も記憶せず、また歌は月や花にふれた感動を三十一字に並べるだけで奥旨とて存せぬと辞退した」とある。翌十六日の条に「頼朝がしきりに引留めたが、西行は奥州平泉の藤原秀衡のもとに東大寺大仏の沙金施入勧進に行くとして正午頃出立し、頼朝が賜った銀の猫を拝領したけれども門前に遊んでいた子供に与えて立去つた」と続けている。最後に同じ「吾妻鏡」の文治五年八月二十一日の条に、頼朝に攻められた藤原泰衡は平泉の館に放火して逐電し、翌二十二日頼朝が焼跡を検分すると、火を免れた坤(西南)の隅の土蔵の中から紫檀の厨子、犀の角、象牙の笛、金の杵、金造りの鶴など目を驚かす数々の珍宝と共に「銀の猫」が発見されたと記している。これは伝説ではなくて、鎌倉幕府の公用記録ともいふべき確かな資料である。そうする西行は鎌倉幕府の門前で「銀の猫」を子供に与えず、平泉ま

で持って来たのであろうか。それとも三代の豪華を誇った平泉には別の「銀の猫」があったのであろうか。これは永遠の謎と言うべきである。

前出の千載集の選者で西行より四才年長の俊成(定家の父)の長秋詠藻と天台座主慈円の拾玉集には文治六年二月十六日河内弘川寺で西行が歿したと記している。(西行忌)同時代の巨星、清盛の死に遅れること九年、またこの西行に遅れること同じく九年で武家の棟梁頼朝も世を去つた。(四九、一二、三〇)

むかしがたり

昭和十五年卒 虎川松郎

昭和十五年当時の神戸商大を卒業以来、神戸は何回となく通過したが、まだ一回も母校にお伺いしたことがない。全く我ながらあきれた話であります。決して六甲を忘れてたり、軽んじているのではなく、新幹線の窓から遙かにそびえる学舎を望みながら、阪急の六甲登山?通学路を汗をふきふき通つた三年間のなつかしきを思い出すことしきりであります。

現在の神戸大学は商大当時とは規模といい、雰囲気といい、格段の違いがあつて、私などの想像外であろうと思ひますが、商神彩なす翹をあげて、靈杖遙かに東を指せば……の気概だけは、旧におとらず六甲に木魂していることは疑がないと思ひます。

今「風韻」を拝見し、又「風韻会員」名簿を見ますとその発展の

跡がまざまざと分り、よくも風韻会がこれほどまでに大人になったものだをつくづく感ずる次第です。まず会員数がこんなに盛大にふえたことは驚きである。然も女性の方々が多いのにびっくりであります。商大時代には勿論女性一人もいなかったし、「仕舞」をやる会員も一人か二人で、宇治先生もこの変りようには驚いておられるに違いないと思います。女の方といえば生島先生の奥さんがよく私達の謡会にご出席いただいたことを思い出します。

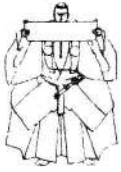
宇治先生には週一回わざわざ六甲の学生会館（今どうなったか分りませんが正門脇にあった）において願って、多いときで十人位、少ない時は二、三人でもご懇得なご指導をいただいたものです。集る人が少ない時は、この山の方までおいで頂いたのに、と思うと何とも申しわけがない気がしたものです。私は今、白状するのも恥かしいこととなりますが、宇治先生が「能」をおやりになるのが分ったのはずっとあとになってからで、それまでは素謡にばかり夢中になっていて、肝心かなめの「能」との関係などほとんど忘れていたといつてもいいのではないかと思います。宇治先生が昭和十四年四月二十七日に神戸能楽会館で昼の部で「熊野」を、夜の部で「鉢の木」をおやりになるのを拝見したのが始めて私と「能」との出会いであります。それまでは、映画などで、例えば信玄ものの桶狭間の場面で見有名々人生わずか五十年、夢まぼろしの如くなり……の「敦盛」などでちらっと見た程度で、「謡」の何ものかも知らなかった時に見たもので、ただ我々日本人のみが持っている底知れぬ素朴な表現と、その中に組み込まれた汲めどもつきぬ味わいと、こんなものかなあと単純に考えていたにすぎなかったものです。当時は、観世

左近師が壮年の最も華やかな時代で、現在の観世元正師がまだ子役をやっておられた頃で、宇治先生の能を拝見して以来はまるで気遣いじみて「能」に引かれて了い、毎月例会として大槻能楽堂で行なわれた、左近師の能や、観世鉄之丞師、山本博之師、大槻十三師、梅若万三郎師、梅若猶義師、梅若六郎師、福王弥三郎師などの能が待ち遠しいといった状態だったわけです。あの雰囲気荘厳さには、身が引きしまるといふか、膚がじっとり汗ばむ程の緊張につつまれたことも思い出します。お幕があいて「シテ」が橋掛に現われる。我々の目に初動が触れる。その幕あきの前に、我々の目に見え、なお幕のうちですでに所作があつて、サツと幕があく。だから張り切つた緊張がビーンと我々観客に開幕と同時にぶつかってくるんだ、ということをお友達から聞いて、さもありませんかと思つたものです。それほど「能」には目に見えない張りがある。姿がうつる程に磨かれた舞台では、「地」の方々が扇子一本を前に端然と座り、お囃子が整然と居並ぶ。微動だにない。一寸のスキもない。どんな至芸があつても拍手はない。どよめきもない。しわぶき一つない。観客がどんなに多くとも、まるで無人の野で舞っている感じ。「シテ」「ツレ」「地」の三者一体の感。こういつた雰囲気は見る人の心にじんとしみ込んでくることは言うまでもないと思ひます。無限の静寂の中に吾ただ一人あり、といった感じは「禪」の境地に通ずるものがあることは当然のことと思われまふ。

私は二月の初め頃、寒い日に左近師の「安宅」を拝見する機会がありました。その時弁慶に扮した左近師が、それつらつら惟んみれば、大恩教主の秋の月は……と弁ずる場面が数分間ありますが、そ

の弁慶が白紙の勳進帳を心持目高に開いて厳然と仁王だち、朗々と謡い出し。吐く息が二月の寒い気温で白く見える程の冷えがあるのに、ひた面の顔からはりりんたる汗が玉をなしてただれ落ちる様を見たときは、これがほんとの「能」であり、「謡」であると思つたものです。私達も寒稽古をやるうということ、寒い二月の一週間、朝早く六甲台の学生会館の窓を全部あけて、会する者があろうがなかろうが。音吐朗々無人の学生会館をゆきさぶつたものです。その時は左近師のように額から汗まではいかなくても、全身ほかほかとなつて爽快な気分が教室に向つたものです。福光先生をはじめ白石さん、石田さん、小山さん、岩岡さん、松平さん、山口さん、中川さん、鈴木さんなどが常連だったようです。

私は大学卒業と同時に就職先は満洲だったので検書店の謡本二〇冊全部をそろえて持参し、大いに満洲でうなるつもりで渡満したのですが、一年で現地応召、支那大陸を転戦して終戦、そのため大事な大事な謡本は全部大連の下宿に置きっぱなし。現在持っているのは「鉢の木」一冊である。この頃仙台の古本屋を探して見たが謡本は一冊もなく、新刊書店にもないのです。あの当時は神戸のどの古本屋にも検版の古本がうづ高くあつて、新刊本で三〇銭か四十銭だったので古本では二〇銭位だったろうと思ひますが、私が満洲に



持つていったものもあちこちの古本屋を探して全冊をそろえたような気がしますが、今新本がいくらか分りませんが、新刊本二一〇冊を全部そろえらるとなると大変なことになるだらうと思ひますが、全く大連置き去り

は残念に思つている次第です。私は復員後歌を忘れたカナリヤの如く一回もうなつていないのです。終戦のどきくさが私から「謡」をとりあげて了まつたのかもしれない。私の居る仙台地方は「宝生流」と「喜多流」が多く、観世の人は殆んどいないといった状態ですが、仙台の「県民会館」にも今年から能舞台（組立式）ができたので年一回位は各流の方々が来られると思うので楽しみにしている次第です。

私もこれからもう一度「謡」をじっくりやりたいと思ひます。藤井先生の渋い「のど」を浮かべながら思ひ出をつづつた次第です。宇治先生もますますお元気でご活躍され、また風韻会の方々も尚一層はり切つて「うなる」ことを祈つてやみません。

思いつくままに

純 久

今、ネスカフェのコーヒーを飲みながら、この原稿を書いていきます。能……そうだ、能を見なくなつてかなりの月日が流れた。初めて教えてもらった「鶴亀」から最後に謡つた「養老」まで、その間には楽しいこと、悲しいこといろいろあつた。今では、何千円も払つて能を見に行くくらいなら飲みに行つた方が良くと思うのか、ネオン輝やく巷を夜ごと徘徊する。酒は涙か嘆息か、ラックをくゆらし、ロックを聞きながら飲む酒は、空しい心に浸みわたる。

「おい、あいつ来月結婚するんやて。」「ほんまか、へえー、あ

いつがねー。」知っているやつは、どんどん結婚していく。「何ノ結婚式の司会をやってくれ？何でそんなもん俺がやらなアカンねん」等と酒飲んでくだまいて、今日も帰りは終電車。闇夜のガラスがアホーアホー。

お酒を飲んだ翌朝はトマトジュースに限るそうだがトマトはきらい、マックスウェルコーヒーをブラックで飲み干し、今日も行くく会社まで。

ステレオのスイッチをひねると「太陽がいっぱい」の甘く悲しいメロディ。アラン・ドロンの顔が目に見え。能にこんな音楽が取り入れられたら、スヤスヤと眠ることなく見ていられるのになあ。しかし何だつて能を見るのに、あんなに高くとられるんだらう。貧乏人のひがみか、能は忘れても風韻会は忘れたくない。でもいざれ忘れる。いや忘れ去られるんだらうなあ。誰か電話でもしてくれりゃいいのに。そうすれば飲みにいけるのに。何ヶ月も経つのに電話もかからない。こんなに近くににいるのに。孤独、お前はそれを愛してたんじゃなのか。そうだその通りだ。でも淋しい時もあるのさ。手紙でも書こうか。何て書く？誰に書く？出すあてなんかあるものか。海を見てその大きさにホッとする。安心したいんだ。この分裂症め、お前にこのもどかしさがわかるものか。自己満足だよ。狐と狸のばかしあい。旅に出て夢は枯野を駆けめぐる。岡山まで旅をしたんだ。倉敷で一日中ポケッとしてた。手紙を書いた。自分自身に倉敷にて某日。愛、愛って何だ酒、これならわかる。日本酒？ビール？それとも洋酒？くめども尽きず飲めども変らぬ冬の夜の盃。「お勘定ノ」「はい、××円です。」「何ノこんなに飲んだのか。割

つぼや製パン株式会社

神戸市東灘区御影中町
1丁目8-1
電話 841-0720

~~~~~  
店員アルバイト募集(パートタイム)  
午前又午後5時~9時

勘でいこうで。」

「よし、それでいこう。そのかわりもう一軒。」

「あー、今日も星がきれいに光ってる。」

「バーカ、あれはネオンサインだよ。」

明日も頭痛いなあ。

某月某日

淡路・四国へ  
待たずに行ける…

## 淡路フェリーボート

お車なしでもOK!!  
本社：神戸市長田区駒ヶ林南町  
TEL.078(731)0675

## LADY'S SHOP

セーター、ブラウス…  
スカート、パンタロン…

## フシミ

湊川商店街 神戸

TEL.(511)2043  
フシミ

能楽堂の二階席と僕

B 24 加 藤 久 佳

一学生割引で観る能は通常二階席、金がない者には最高の席である。一般的な能の形式はワキの登場が始まり、次第。名宣。道行があつて前シテとの問答に順次移行する。そしてワキはワキ座に位置しシテの一人舞台となる。この様から従来ワキを見者の代表者として説明される。僕自身、能の導入者としてのワキの必然的存在が好きであり魅力を感じる。風韻会入部後、多くの先輩がやってこられた様な「花伝書」を机上にしながら勉強したこともない。しかし、二階から観能していると何か物足なさを感じることも暫しある。観能代表者のワキと僕の空間的次元の差異から多分来るものであろう。従来の舞台の高さと一階の見所にいる者との高さは略ぼ一致する。そして能の進行と共に舞台の緊張密度は衝害なく見所へ伝導し、反作用として見者は舞台へ登場するのである。見者がワキに化身した自分自身をここでは観るよりむしろファンタジックな世界を茫然（惘然）と眺め超風たる心境に入っている。その途端、僕のシラケ虫が騒ぎ

始める。あたかも水虫みたいにかゆく刹那く疼く。斯くして二階席はシラケムシの大洪水。いや大運動場になるのであります。そして虫達が疲れ果てたとき留め拍子をうち能は終るのです。

僕は色々なことに関心を持ち研究などしてきませんでした。こういったことを書くのを見ると、僕は英語学習テレビのセサミ。ストリートをにやにやしながら見ている二才半の赤ん坊なのです。

二階席とは、料金は最底で僕には最適で、観る高さは最高で、はて観る場所としては如何なるものなのでしょうか。お教え下さいまし。

(面)

P 26 長 田 晴 子



能の面は狂言に使用する「狂言面」やその他の面と区別して「能面」といわれる。しかし単に「面」と書いた場合にはメンとはいわずにオモチと読むのが普通である。能は仮面劇であるから、直人物をのぞいては、すべての曲のシテが仮面をつける。面は能の生命であり、能楽師は面に対して特別な感情、神聖視といつてよいほどのものをもっている。すべての扮装を終ったシテは鏡ノ間にきて鏡の面を、丁寧に額の前に載いてから顔にあて、面紐をきつく結ばせる。それは扮装の最後の仕上げであつて、面をかける前の演者は、扮装

をしつつある役者であったが、面をかけたときは、もう役者ではなくて、その曲の人物（幽霊なり、精なり、神なり）なのである。面をかけることはその面の中に「おのれの身も心も入れ込んでしまうことなのだ」といわれている。だから同じ扮装用具であっても、面と装束では意味が違ってくる。役者は自分を捨てきって面に魂をあずけ同化してしまうのだから、面が重大視されるのは当然で、鏡の前で面をつけたトタンに、演者は別人格になり、面はいきいきしてみえてくる。面とはそういうものである。

多岐にわたる能の曲柄の特性はシテの性格の相違によるものであって、シテの役割によってそれぞれ相貌の違った面が使用される。厳密に言えば一曲一曲に、その曲特定の面があつてよいわけで、事実ただ一曲のための面もあるけれども、能の象徴性からすれば、必ずしも厳格に各曲別個の面を必要としない。一つの情緒を盛り上げて、そこに造形美を発揮するためには、普遍的な、武士なら武士、美人なら美人、老人ならある種の老人の性質を表わす面で、数曲を舞うことができる。

面の材質は木で、多くは松材が使用されている。彫刻であるが、その上に彩色が施されている。その意味で彫刻的な美と絵画的な美とを、ともにもっていないければならない。彫刻的にも絵画的にも非常にすぐれた古い作品が残されていて、それらはそれ自体で立派な芸術品である。しかも能面はいかにすぐれたものでも芸術作品としては未完成なものであって、シテが舞台上にその面を使用するとき、はじめてその面に生命が与えられる。

能面は舞台上に大きな効果をもたらすと同時に、その演技を制約

する。だから「使用の面によってその曲の位が決定づけられ、演出方法が変わってくる」ともいわれる。またいくつもの曲に同じ面が通用するのは、一鬼畜に使われるような強い表情のものは別だが、能面のもつ表情の象徴性のためであり、喜怒哀楽のどれかの表情を決定的に示すことをせず、演者の力量と使用法に従ってその表情がうち出されるように制作されているからでもある。「能面の中間表情」などといわれるところであり、そういうものであるから、長時間にわたる演技に耐えられるのである。

## 私の観能記

J 23 寺 本 博 行

先日、今迄何番ほど能を観たのか調べてみますと、六十七番ほどでした。今日五流に伝えられている曲が二百五十番ほどあることから考えますと、まだ三分の一にもみたないくらいしか観ていないこととなります。観能した回数からしますと何度か観た曲がかなりありますので、六十七番よりもいくらか増えると思います。

一回生の時は、別のクラブにも入っていましたので、恥かしながら一度も能を観に行ったことはありませんでした。能を初めて観に行ったのは、入部して一年たった時でした。その時の番組が今手許にあります。昭和四十七年四月一日、大槻能楽堂で、泉喜夫の「求塚」と和島富太郎「綾鼓」の二番でありました。「求塚」は最初に観る能としては少し困難に思える曲で、終わった後で「あゝ、終わった

なア」と多少安堵感を覚えた事が思い出されます。それから四回生になる二年間は、よく能を観に行った方だと思います。

毎年五月十一。十二日と奈良の興福寺で催されています。薪能も三回ほど行きましたが、能の発生の地であります古都奈良で行なわれるこの薪能は格別な趣きがあります。春日若宮拜の舎で観た「頼政」などは、橋がかりが舞台の右にあり、囃子五が舞台の右側にいて、地謡が左側にすわるといった変則的な能で、多少好奇の目をみはりまりました。薪能といえ、今日各所で催されています。興福寺の薪能の他に京都平安神宮での薪能、神戸長田神社、湊川境内、大阪生国魂神社の薪能を観ましたが、やはり興福寺で催される薪能が一番昔を偲ばせて、私は好きです。京都に薪能を観に行った時には驚かされたことがあります。席は全席が自由席となっていましたので少し早めに行って正面の前方に座っていたのですが、能が始まってしばらくすると二・三人づれの芸技さんが私の席の前の方に入ってきたのです。入ってくると同時に、そこに座っていた学生らしき男達が立ち上って行ってしまいました。私はあつげにとられて見ていたのですが、能楽師の最の芸技さんがアルバイト学生に席をとらせておいたのかな、と想像したものです。

薪能は野外でかがり火によって行なわれるものであるが、野外で行なわれた能で非常に記憶に残っているのがある。それは十年に一度催されるというもので、三田市の大川瀬住吉神社の能狂言奉納行事であった。当時、学連の研究局の取材で出かけた時は、三百年の伝統をもつといわれる能楽堂は修理中であった。行事の当日研究局員と見物に行ったのであるが、能楽堂の前の境内はます席が作られ

てあり、地元の人達が家族総出で重箱に一升壺を並べてなごやかに観能しており、私達も近くの店から酒を買ってきて飲みながら観能したものである。翌日の朝日・神戸両新聞に私達の記事が載っていたのでよく覚えている。

私はこれが本来の演能の姿であったのではなからうかと思う。能は静かに観るもの、というのが能楽堂の中でみることのみしかな私達の固定観であるが、前述のようにして行なわれた野外での行事で、他人の話し声、鳥のさえずりなど少しも耳ざわりにならず、気楽に能を観ることが出来た。私は現在百回くらいは能を観ていると思うが、今日のように芸術上高度化した能に対する評価はまるつきり解らない。見る立場からすれば、能を非常に窮屈なものにしてしまつて、能というものは自分たちがとらえきれないむずかしいものであると、能楽に携る人達がせせこましく考えているにすぎないように思えるのである。気楽に見ることが出来る能ということについても少し考えてもよいのではあるまいか。

能を観て一度だけ涙を流したことがある。宝生流の辰己孝が演じた「隅田川」であったが、一説によると涙を誘う演技はよろしくないと聞いた。涙もろい私には、この説も歌舞伎等にくらべて能は崇高なんだぞといったがっている人達のせせこましい意見ではないかと思える。能を私達から遠ざけているのは、こんな所にありはすまいか。

今迄に観た能の中では、「清経・恋之音取」が一番好きである。揚げ幕から橋がかりを進む清経の歩みに聞える笛の音が何ともいえぬ私には好きである。囃子には笛・小鼓・大鼓・太鼓があるが、どれ



も楽器のうちではすばらしいと思う。そして笛の音によって清経が現われる場面は、何度観てもたまたずをのまされる。静けさのなかに流れる笛の音は、人の心を張りつめさせるのであろうか。静かなたらずまいには、相手とのつながりを引き寄せようとする力が働くのであろう。

片山博太郎の「井筒」もよかった。観世元正の「富士太鼓」もよかった。観世静夫の「鉄輪」もよかったと思う。しかしながら、能を観るということについて考えてみると能を観るとはといった何なのであろうか疑問に思えるのが常である。芥川竜之助は「金春会の隅田川」の中で次のように述べている。能楽堂の観客席は、お弟子さんと呼ばれる謡や仕舞を稽古している好事家たちに占められていた。「バァナァド・ショウはパイロイトのワグナーのオペラを鑑賞するには仰向けに寝ころんだなり、耳だけあけているに限ると云った。こういう忠告を必要とするのは遠い西洋の未開国だけである。日本人は皆、学ばずとも鑑賞の道を心得ているらしい。その晩も能の看客は大抵謡本を前にしたまま、滅多に舞などは眺めなかつた。」以上は観客に対する痛烈な皮肉であるが、このことから能を演ずる人や能を観る人達等の能に接している者のあり方をあらためて考えさせられる。

四回生になってからはあまり能を観なくなつた。なぜか観たいという気持がおこらない。たいくつなだけで、との思いが心を蔽っている。しかし最近また能を見ようかなと思う気持になつている。次に見るとしたら「景清」が見たい。



TEL 851-2096  
851-4512



TEL (851) 7512

スポーツ用品のことなら

御影スポーツ・センター店

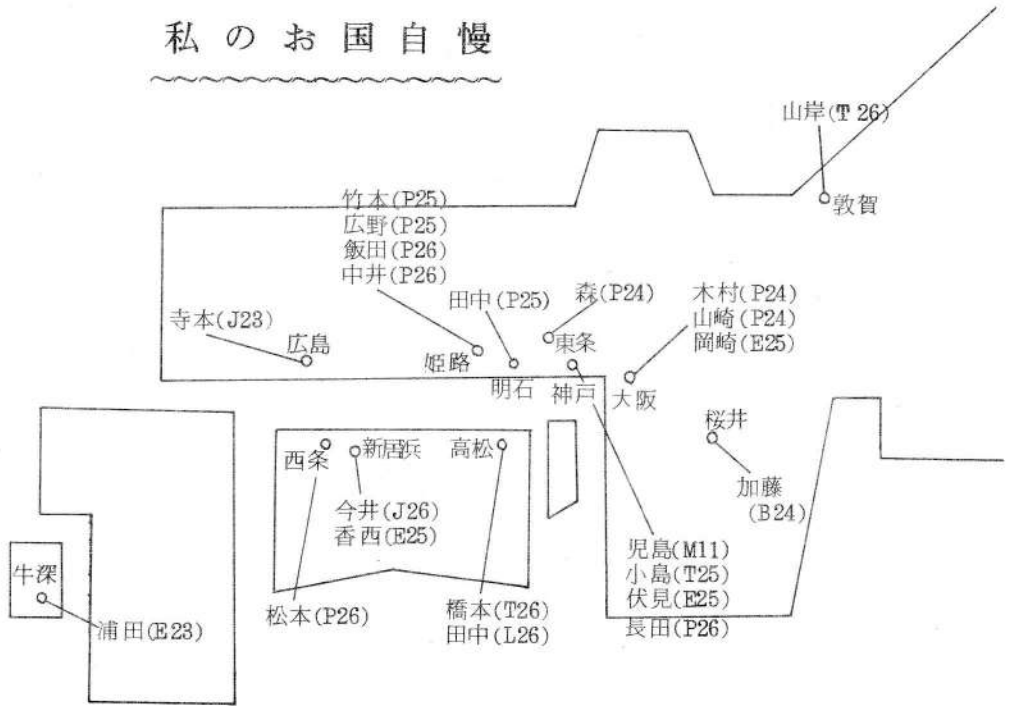
神戸市東灘区御影本町4丁目7-17  
阪神御影駅前  
TEL (078) 811-6314

海外旅行  
周遊券発行  
団体旅行  
ゼミ旅行・合宿  
新婚旅行...旅の事なんでも

全観ツーリスト

阪神電鉄御影駅前  
(851) 0645  
(811) 2461

# 私のお国自慢



## 熊本 (浦田理一郎)

熊本県といえば阿蘇と天草。その天草の最南端に位置するのが我が町牛深。ちっぽけな漁師町である。ここにあるのは海だけ。しかしその海はキレイだ。10mの所でも底が砂地か岩かがわかる。皆も一度はお泳ぎにおいで。

## 広島 (寺本博行)

野球はカープ、サッカーは東洋。バレーは専売、水泳はフジタ、クルマはマツダと地方色が強いのが広島。海の幸、山の幸も美味しい所。酒もまた格別にうまい。

## 新居浜 (香西千秋・今井基博)

工業都市新居浜。そこが私達の郷土である。江戸時代末、別子銅山が開坑されて以来、工業の町として栄えてきた。秋には「ちょうさ、ちょうさ」のかけ声で行なわれる祭で、三日間は祭一色に町が染まる。私達が自信をもってすすめるのはこの祭だけである。

## 高松 (橋本基宏・田中明子・西条市 松本恵子)

瀬戸の海に浮かぶ島々の間を往き通う船が入船する時、最初に目にする城は、「讃州讃岐は高松さまの城が見えます波の上」と歌われる玉藻城です。高松はこの美しい水城を中心として南へ広がる、小さく整った城下町です。また、「さぬきのこんびらさん」の名で親しまれている金刀比羅宮の「蹴鞠」は京都の平安宮の「蹴鞠」と並んで、現在の日本にただ二か所残るものである。

## 明石 (田中恭子)

わが明石には、明石市営ならぬ県営の明石公園があります。国鉄明石駅から歩いて二分、北側に二つの角櫓が見えます。また公園入

口には、太陽漁業初代社長の中部謙吉氏の銅像があり、私の母校、明石高校には中部氏寄贈の中部講堂が古いながらも一段格をそえている。公園内には各種競技設備があり、最近県立私立両図書館もできました。春は桜、秋は菊。剛の池周辺はアベックでいっぱい、明石公園の名物となっている。

### 姫路

(竹本志保美・広野勢津子・飯田寿子・中井ますみ)

姫路といえば何といっても天下の名城白鷺城。四季それぞれ表情はあるけれど、春が一番いいようです。城内にはいたる所に桜の木がうえてあって、うららかな春の日、城の中から格子越しに桜ふぶきをながめると、花びらが長い廊下に舞い込んできてなんともいえず風流。毎年夏には新能も催されている。

### 東条

(森 章子)

東条町、知られているとすれば東条湖、ゴルフ場ぐらいでしょう。釣針と手染の鯉幟と兼業農家の町です。今後の発展はわかりませんが、今はまだわりと静かな町です。冬にはスケートでも。

### 神戸

(小島政章・伏見正章・長田晴子)

長崎から船に乗って神戸に着いた……。そう、神戸は言はずと知れた港町であります。またファッションの街としても有名です。三ノ宮あたりを歩いていただければおわかりと思います。神戸は最高。海。山が近くにあり、神大あり、絶対神戸は最高です。

### 神戸の灘

(児島 新)

「灘」といえば「酒」。全国の日本酒ファンが、よ・だ・れをながす一本の本場、宮水の湧く所。今でも灘区から東灘区にかけて沢山の酒造りが行われている。でも一見のどかに聞えるこの地名にも

今や各種工場の進出。海岸沿いにはモクモクと煙を吹き上げる煙突が乱立。風の方向によつては一キロも離れた我が家まで摩訶不思議な臭いがプーン。でもでも、灘を含めた神戸の雰囲気は、そりゃ素晴らしいですよ。山あり、川あり、港あり。そして男あり女あり！街全体の感じが陰陽の陽。珍しい食べものもあるし、チョッピリ外国の感じも味わえるし。あつ、言い忘れていました。花の大学、神戸大学「風韻会」の所在地も灘区である事をお忘れなく。

### 大阪千里ニュータウン

(岡崎啓子・大阪 木村升治・山崎喜美子)

「千里」は道幅も広く、街路樹がたくさん植えられ、高層アパートがニョキニョキ建ち並ぶ従来の日本の街とは全く雰囲気異にした街、白と緑と空の青のコントラストの美しい街。そして、冬の暖かい日には、庭先に野鳥が集まってくる。つい先日、庭の生垣に巣と卵があるのを発見した。ほんのちよっぴり自然もある。

### 桜井

(加藤久佳)

僕自身の歴史は二十一年。その間に全てのものが大なり小なり変ってゆく。その中で村の高台にある寺だけは元のまま。二十一年前のまま。でも土蔵の壁は落ち、淡白色の土臭く線香の煙の染み付いた土蔵の十一面観音像。乾像の金箔ははげ永久時間の圧迫に痛々しい、変ってない顔上の微笑。

### 敦賀

(山岸国夫)

敦賀にもどると、あちこちの見慣れた景色が、安堵感を覚えさせ。氣比神宮の大きな赤鳥居、海と松原。冬には、雪の白さが松に見事に映える。そして、食欲そそる越前ガニ。これらが敦賀のイメージである。

## 風韻会アミーバ論一

## 一つのサークル

E 23 浦田理一郎

今此処に一つの文化系学生サークル「風韻会」がある。構成は二十三名。皆それぞれ一つのクラブ観を持っている事だろう。その考えがどんなものであろうと、他の人間が口を挟む事ではないし、又、挟むべきでもない。しかし、ただ一つ、必ず言える事がある。それは学生サークルは、我々が形作っている、という点だ。さて、その「形作る」とはどういう事を意味するのか。

我々が風韻会に参加した時、「入部」した、或いは「クラブに入る」という表現をする。さて我々は、一代どの様なものに「入っている」のだろうか。

何か堅い金属で出来た乗り物、例えばバスの様なものだったらどうだろう。誰かが入り込んでも、外郭は変わらない。行先は運転手まかせである。行先が自分の思う所でなかったら降りるしかない。そしてこれが学生サークルだったら、運転手は幹事、又は四年生である。

しかしその様に考えている部員はよもやいるまい。皆の意識がそうであるなら、早晩のうちにクラブは崩壊してしまう。雑多な人々が話合いなしに同じ所で行こうとしている訳はないのだ。

次に、ビー玉を入れたネットがある、これはどうだろう。このネットは、あっちへころがり、こっちへころがり、どこへ行くかわからない。そして破れた網目から幾つか零れ落ちて、他の玉は知らない。

当然の事ながら、サークルとはこんなものでもないだろう。そしてここに一匹のアミーバが登場するのだ。

このアミーバは、時々刻々に変化する数多くの偽足と、一つの核を持つている。このアミーバは貪欲である。次から次と新しいものを飲み込む。そして飲み込まれたものは、すぐさまアミーバの体となるのだ。

このアミーバは偽足を持つている。そしてそれを体の四方八方に出している。あちらに養分があれば、そのどれかが体内に取り込む。こちらにあれば、又、そのどれかが取り込む。そしてその養分は、体全体の養分なのだ。

このアミーバには更に一つの核がある。この核は、偽足が迷っている時、どちらに足を出したら良いのか教えてくれる。アミーバ全体の行手を導く。しかしこの核は飽迄単なる核であり、核のみでは生存し得ず、そして常に細胞質と接触している。

このアミーバの一部が干切れる。するとこのアミーバは体全体に痛みが走り、体全体を震わせるのだ。

風韻会はこの様なアミーバであるべきではなからうか。尤も、そ

したら私はそろそろ老廃物かな……。

# ― 高校一年の頃の思い出 ―

E 25 伏見正章

一九七〇年二月二十一日作

畦道は人踏まれる春を待ち

四月六日

夕焼けに火の海となる小部の里

五月二十二日

せみの声木々に触れあい宙を舞う

七月二十八日

一度鳴き二度鳴きすれど

せみの身の短かき命誰かおしまむ

八月二日

虫達の捕らわれり里いづくかな

八月六日

空も青 葉の緑にも命あり

九月十二日

イワシゲモ 夕焼けさえる秋の空

九月

枯れススキわれに近ずき語る満月

九月二十七日

風涼し葉に色上げるもみじかな

一九七一年一月十七日

松一枚日の出にかかる寒稽古

△別れ―モリの死▽

四月二十二日

春雨にただ首輪のみぬれにけり

## 二宮金次郎の教え

黒 博 之

つくづくいやになりました。謡のクラブに入っていて雑誌の編集をしなければならなくなつたのですが原稿が集まりません。雑誌の編集というのは、原稿が一つでも集まらなければ先に進めないのです。そんな訳で、小言がいたくなりました。悪い癖でなかなか直

りそうにありません。

自分の仕舞は覚えても、他の人がする仕舞の地謡は発表の前日になるまで覚えていない。雑誌を作るから原稿をお願いしたいのですがと依頼すれば、二度三度とお願ひしなければ書いていただけません。自分を何様だと思っておいでなんでしょう。御大臣か重役様のようにたぶん毎日御多忙なのでございましょう。高貴なお方は、他人の事などあまりお意識なさいませぬのでありましょう。それでついついうっかりとお忘れになることもあるのでしよう。わたくしなぞはその点下賤なようで、人に頼まれたことなどあまり忘れたことではございません。一年中御大臣のようにお忙しくありませんので、でも忙しいときもちよっぴりありまして、そんな時には歩きながら考えています。何か考え事をする時はどういふ訳か、歩いている時が一番ひらめくのです。だから、わたくしなどは座っている時はいつもぼんやりいたしております。謡なども歩きながら覚えたものです。いつぞや仕舞の地謡を覚えながら歩いておりますと、突然うしろから女性に声をかけられたことがございました。「お謡をなされるの」と言われて立ち去られました。

最近、車が多くて歩きながら考え事するのは危険なことではございましょう。それよりも高貴なお方は歩くなぞということはなさいませぬのでしよう。クラブ論と言えば毎年ごもつともな事をお書きなされていらっしやいますが、この御大臣様達にも「信頼」という言葉がお分りになつていらっしやらないようです。いくらお顔を見合わせた所で、責任をお果たしなさらない限りお互いの信頼はございません。私は風韻会を信頼いたしてはございません。

## 大衆酒場

コンパにどうぞ

# ぜい六

市電六甲口下ル西角

電話 (851) 4787

御集会にどうぞ

# 六甲パーラー

六甲団地西

TEL 861-6890

## ケンタッキーフライドチキン

＜メニュー＞

スナック.....370円

ミニパック.....220円

ディナー.....560円

阪神御影駅前

## DPEサービス

カラープリント美しい仕上り

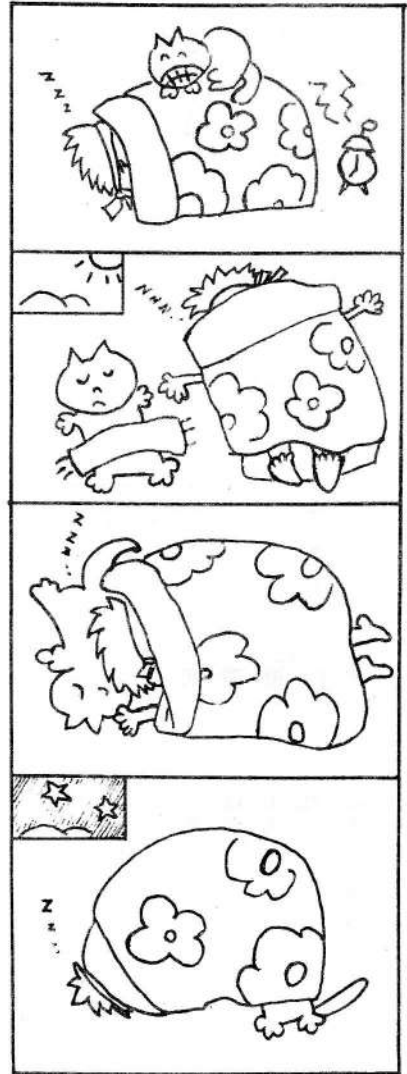
阪急六甲駅南出口東へ浜側

# 六甲ユニ写真店

821-2477

# 二人ぼっち

—花の23回生—



## 私の一日

— 浦田理一郎 —  
— 寺本博行 —

入部当初から先輩を誘い、クラブと飲み屋と下宿の間を往復しながら、四年間風韻会と一緒に暮らしてまいりました。酒の上でのパブニングは数しれず、ふきだしそうな逸話も思い出せばきりがないくらいです。

酒に強く、カッコよくて女にも強い？007とはまるで我々のためにある番号みたいです。

四年前やろ。うばかり五人いた二十三回生もとうとう二人つきりになりました。風韻会さってのうさがりや。

後輩諸君！

まだまだうるさがりやでおりますぞ。

花の23回生

## 学連加盟校からみた

### 風韻会の外貌

昭和七年に発足した風韻会は、関西の大学にある能楽部の中で、最も古いクラブの一つに数えられる。そして現在の関西学生能楽連盟の草分け的な存在でもあります。そこで、風韻会とは学連の加盟校からみればどのような存在であるのであろうか、と各学連加盟校にその外貌をお聞きいたしました。

## 風韻会にも女性の波

学連の草分け的な存在であります風韻会は、現在男子十名、女子十二名の合計二十二名の部員からなりたっています。一時は部員五十名近くの大所帯の頃もあったそうで、もともと六甲台の三学部部の学生で構成されていた風韻会は、多くの男所帯でありました。ところが昭和四十一年ごろから女子部員が増え始めまして、とうとう今年には女子部員が男子部員数を上廻るといった現状にいたっております。部員減少の一途をたどっている神大宝生会にとっては、さぞや羨しいことでありましょう。

しかし現実はどうですか？

☆大阪市大 旧三商大ということもあって学連の中でも特に親しみを覚えるが少し内輪だけで固まりすぎている。それが内部結束に結びつくのなら良いが、排他的にならないように。

☆神薬大 クラブとして非常にまとまりのある感じで、公式な場において積極的に好感がもてる。これからも、研究熱心なクラブとして、頑張ってください。

☆大阪樟蔭大 連盟に入って間もないのでよくわからないが、風韻とはなんと素敵な響きをもった言葉だろう。そういう名を冠している会の方々はきっと素晴らしい方々ばかりだろうと想像するのみ。

☆神商大 女性化の傾向があるようだ。といっても女性が増えたという意味で我々にとってはうらやましい。しかしクラブにとつてよいか悪いか？幹部次第であろう。何しろ女性というものは……。

☆甲南大 技術的に学連、四大学において頂点にあると思う。しかし「交流」に目を転じてみると独特の雰囲気でも自らを包みこんでいる。それに気付き克服するならば対外的により充実するであろう。

☆大薬大 神戸の六甲台というめぐまれた環境。連盟において重要な存在で大変協力的である事に畏敬の念を持つばかりである。これからの発展を祈りたい。

☆武庫川大 女子大のクラブと男女共学のクラブではかなり雰囲気が違う。私達は発表会中心なのに対して風韻会はクラブそのものを重視しているようだ。学連ではいつも中心的な学校である。

☆関学大 神大II酒のイメージも女性の急増故か崩れつつある。他方連盟内のうるさき型。連盟の柱には違いないが少々おとなしくなりつつある。必要な時は発言するが大抵は平然と下界を眺めている。



## さて、風韻会の評判やいかに！

風韻会は初め謡のクラブとして成立しました。現在では謡だけに限らず仕舞もやっており、発表会には毎年舞囃子も出すようになっていきます。最近学連においても加盟校の半数以上は演能を催しており、まだ一度も能を演じていない風韻会では演能は是か否かと議論百出の状態であり、その成り行きが注目されます。

学連の加盟校にはそれぞれ活動に相違があり、それがまたそのクラブの特徴となっています。わが風韻会では、謡を通じて人格を陶冶することがクラブの目的と考えられています。そのために、日々練習を行なっています。

さて、こうした活動を続けている風韻会とは外から見ればいかなる外貌をしているのでありましょう。

### 謡曲コンクール

|             |       |
|-------------|-------|
| 昭和 年 31 第三位 | 草子洗小町 |
| 昭和 年 32 第二位 | 葛 城   |
| 昭和 年 34 第三位 | 草子洗小町 |
| 昭和 年 41 第二位 | 巴     |
| 一四十五年以後中止   |       |

☆大歯大 遙かなる六甲を淀の川面に写し夜毎眺めれば、ある時はこわいメガネのオカッパ頭だの甘い幼顔だのが連盟を通して映り、波間に活発に躍動する多数の方々の姿が拝見されるが、悲しいかな六甲の山並があまりに遠い由富に川波にうち消されてしまいます。

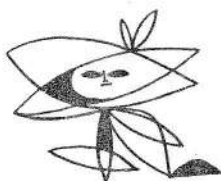
☆関大 個性というものはあまり感じられないが、名物男というか強烈な個性の持主が現われ、後で嗚呼あれが風韻の人間であったかと知れる。しかしこれはまとまりのない会であると謂う事ではない。

☆阪大 能楽関係のクラブはどの大学にもあり、夫々独特のカラーをもってはいるが、風韻会は無理をせず着実な練習を重ねて地味ではあるが確実な成果をあげている。この伝統を守り一層の発展を期待

☆神女大 月並会でお世話になったクラブ。種々雑多な人のよりあい所帯、よくいえば個性的。神女のことを技術至上主義などと批判されたけれど、皆さん私達より上手な人じゃありませんか。(?)

☆阪女大 学連の加盟校の中でも、独自の位置を保っていると思われる。それが風韻会たる所以なのである。個性をもったクラブというものは、それなりにいいものである。女子大という特殊環境の目から見れば誠にうらやましい限りではある。

(※御意見ありがとうございます)



## 四十九年度活動報告

### 幹事学年を終えて

幹事長 加藤 久佳

此度、幹事学生の任期を終え一年間を回顧してみますと、先ず本年度の基本方針としての「時間の厳守」が徹底出来なかつた様です。現在の各学年部員偏重から稽古時に厳守の重要性は確認できるので、クラブの様な集団活動を行なう我々にとっては、このことが必須のことであることを各人は再度心に留置くことです。「わたし位」という安易な考えが意外な落とし穴で、クラブ運営上、各部員一人一人が必要な様です。

一年間とは非常に早いもので発表会の準備におわれ、宇治先生、荒川会長ならびに先輩方々の御援助、御助言賜わりまして、遅ればせながらこの紙面を借りまして厚くお礼申し上げます。

副幹事長 森 章 子

幹事学年になって以来もう一年が経ってしまった。幹事学年として自分がどうであったかは自信がない。しかし、クラブ員として二

回か三回を除き後は出席した事には満足している。クラブは義務ではないが、やはり皆が出て来ないと何もできないと思う。

渉外 木村 升治

今、「反省」ということを耳にして体がピクツとし、それが重くのしかかってくるのは、この僕だけなのではないかと思われる。いや、きっとそうだ。いや絶対そうである。風韻会の幹事と、学連の議長の両立であったが、思うに、どっちつかずのアイマイな状態のままこの一年が過ぎてしまった気がしてならない。その点において一年前を思いおこし、加藤君をはじめ他の幹事学年の者にすまない気持がいつぱいである。合宿、発表会、先輩方への連絡等どれを取ってみても皆におんぶしてしまい、何一つ自分として幹事学年として責任をもてたものはなかった。だから、やれやれという気持より「三年生の一部」と称される者として、「三年生の幹事学生の方」どうも御苦労さんという気持ちたちが今一番強く感じられるのである。実質的には幹事四人、しかも男子二名、このうち一名がこの調子なので、加藤君、先輩方には非常に迷惑をおかけしたと思うに、今年は何んとか「四年生の一部」から脱皮をはかりたく思っている。

渉内 児島 新

この一年の私の感想と申しますと「人間、一刻たりとも、止まっていけないんだなあ。」という事です。学部の実習に明け暮れる毎

日に、時折耳にするクラブの移り変りは、全く目まぐるしいもの  
に思えました。内にとつぷり漬っていた頃には、来る日も来る日も同  
じ様な事ばかりに思っていたのですが……。

発表会、合宿、その他の行事を通じて、全く補佐的な立場しかと  
れなかった事は残念でなりません。でも、一方では久しぶりにクラ  
ブを訪れる時のあの、引き戸を開ける時の一瞬のためらい（クラブ  
について行けない自分の気遣れからくるものでしょう。）や、客観  
的立場からの風韻会の観察も出来たと思っております。そこで一言、  
「クラブに束縛されてばかり……と思っている時はいいんだぞ。ク  
ラブが恋しくて、行けない時もやっぱり面白くないんだぞ。」と。忙  
しいのは勉強だけではありません。でも、家でボンヤリ過すのな  
ら、クラブに顔を見せてボンヤリしたい。風韻会は、それが出  
来るクラブではないでしょうか？

いささか自己弁護になりましたが、これが私の感想です。

会計 山 崎 喜美子

会計という私の性に合わない役につき、その上病気でしばらく休  
んだりして、幹事学年はじめ、みなさんに大変御迷惑をかけて申し  
訳なかったと反省しています。とにかくお金のないクラブですの  
で部員のみなさんがこれからの会計の人のためにも、部費の滞納だけ  
はしないように。心からお願ひして、活動報告とします。

※みなさん一年間御苦労さまでした。

## 学連に出る

E 25 岡 崎 啓 子  
E 25 香 西 千 秋

早いもので、初めて中之島の阪大へ行くようになってから、もう  
一年が過ぎました。この一年間、私たちは学連とクラブとの伝書バ  
トの役目をしてきたわけですが、それを通じて感じたことは、学連  
とクラブとの隔りの大きいです。

まず、行事に参加しても形式的なものにすぎず、積極性があまり  
見られなかったということ。また、クラブ内で学連に関する事項に  
ついて話し合う機会が少なかつたように思われること。学連組  
識が巨大化しすぎて、単なる発  
表の場にすぎなくなってきた、  
連盟員同志の交流がほとんどな  
いこと等があげられます。

やはり、この一年間、学連に  
対するクラブ員の関心が低かつ  
たので、来年は学連に積極的  
にどんだん参加してもらいたい  
と思えますね。

※その通りですね。

酒 類 商 みどりや  
食 料 品

神戸市灘区水車新田  
(六甲団地下)  
TEL.(861)0535

あしあと

昭和四十九年度

二十二日水

古典芸能発表会 於神大学館ホール

六月

十六日金

学連月並会 於関大グラウンド

二十三日金

学連春季発表会 於大槻能楽堂

連吟「橋弁慶」(シテ橋本方前沼) 仕舞「経正」

(岡崎)「羽衣」(広野)「班女」(竹本)

三月

二日(土)八日(金)

春季合宿 於兵庫県津名郡五色町

河野先輩(前四十七年卒)が参加して下さる。

十六日土

歓送謡会 於学生会館ホール

多数の先輩が出席して下さいさる。

十九日火

四年生慰労ハイキング 京都宇治

とても寒い日であったが、女子部員が作ってきてくれた弁当の味が忘れられない。

四月

十日水

新入生歓迎オリエンテーション 於六甲台講堂

男子四名、女子五名入部

八月

三日(土)十日(土)

夏季合宿 於岡山蒜山高原

木村(昭四十八年卒)横山(昭四十九年度卒)先輩が参加して下さいさる。安い宿代のため食事、部屋悪し。日中と朝晩の温度差が激しく、体に変調きたすものあり。

五月

二日(金)五日(土)

第十八回三大学交歓謡曲大会 於神大

例年の慣習を打ち破り、三大学と同じ宿舍にて行動する。三日六甲山にハイキング。四日発表会五日ソフトボール大会 神大の大勝に終る。

十一月

十六日(土)

園遊会模擬店出店 於六甲台キャンパス

三十日(土)

本年は十七日も園遊会の予定であったが、雨のため中止。部員の意気消沈。おかげで部員一同串カツをいやというほど食べさせられる。

第十回秋季発表会 於神大学館ホール

主な番組 仕舞「玉之段」(浦田)「鉄輪」(寺本)連吟「経正」「田村」舞囃子「忠度」(木村)「班女」(森)「舟弁慶」(山崎)素謡「井筒」「藤戸」(教官、諸先輩)番外仕舞「菊慈童」(宇治先生)宇治先生をはじめ荒川会長・米花・福光先生・伊藤・長尾・河野・木村・志智・小田・中川・山中・城戸・長沢・三崎・横山・志岐諸先輩が出席して下さる。懇親会は非常に楽しいものであり、各先生。先輩の名調子の御挨拶、歌などを賜わった。

十二月

八日(日)

学連秋季発表会 於上田能楽堂

仕舞「清経」(竹本)「東北」(伏見)「桜川」

(香西)「班女」(岡崎)連吟大会「女郎花」

(二・三・四年男子)

二十日(土)

謡納会 クリスマスコンパ

コンパに先だち総会を開く。部費月五百円に値上暫定的措置として認められる(従来月四百円)

春合宿に再度資金対策について話し合うことも決まる。

### 神戸大学風韻会決算報告書

自昭和49年1月1日  
至昭和49年12月31日

| 入       |         | 出      |         |
|---------|---------|--------|---------|
| 今期徴集部費  | 82,785  | 先生謝礼   | 108,000 |
| 大学援助金   | 33,000  | 歓送謡    | 24,830  |
| 先輩寄付金   | 14,200  | 三大学    | 5,075   |
| 風韻会広告料  | 25,000  | 四季学    | 20,700  |
| 園遊会純益   | 50,070  | 秋季発表会  | 75,300  |
| 雑収(役料等) | 76,845  | 学連費    | 29,400  |
| 小計      | 409,700 | 風韻会印刷費 | 60,000  |
| 前期繰越金   | 58,237  | 通信費    | 21,935  |
|         |         | 文具費    | 24,280  |
|         |         | 雑費     | 17,292  |
|         |         | 名簿作成   | 42,400  |
|         |         | 小計     | 429,212 |
|         |         | 来期繰越金  | 38,725  |
| 合計      | 467,937 | 合計     | 467,937 |

# 幹事長就任にあたって

E 25 伏見 正章

此の度、風韻会幹事長という大役を引き受けることになりました。今はその責任の重さにただ圧倒されるばかりです。がしかし、就任したからには、これから一年間微力ではありますが、懸命にその責務を果たしてゆこうと思ひます。

さて、本年度の活動における基本方針ですが、昨年に引き続き「時間厳守」をその主旨としています。まず週単位で練習相手を決め、それに従って、月単位で二〜三曲の課題曲を稽古。練習相手を決めているため、出欠を明確にしなければなりません。出欠表を設け、各部署が幹事学年の者に対し、出欠理由をあきらかにすることにより果そうと考へております。

以上、より充実した練習と、クラブ員相互のより緊密な連帯を目指して頑張つてゆこうと思ひます。

つきましては、宇治先生、顧問教官並びに諸先生方々の御指導と、現クラブ員諸君の積極的御協力を御願ひしまして、幹事長就任の御挨拶にかえさせて頂きます。

## 新役員紹介

|      |      |       |
|------|------|-------|
| 幹事長  | E 25 | 伏見 正章 |
| 副幹事長 | E 25 | 香西 千秋 |
| 渉外   | T 25 | 小島 政章 |
| 渉内   | P 25 | 田中 恭子 |
| 會計   | P 25 | 広野勢津子 |
| 学連委員 | E 25 | 岡崎 啓子 |
|      | P 26 | 松本 恵子 |
| 文総委員 | P 26 | 長田 晴子 |

## 昭和五十年主要行事予定

|        |   |        |   |              |
|--------|---|--------|---|--------------|
| 2 / 28 | 金 | 3 / 6  | 木 | 春合宿          |
| 3 / 16 | 日 |        |   | 歓送会          |
| 3 / 19 | 水 |        |   | 於神大学館ホール     |
| 4 / 1  | 火 | 5 / 30 | 金 | 四年生慰勞ハイキング   |
|        |   |        |   | 新一年生勧誘       |
|        |   |        |   | オリエンテーションに参加 |

登録  商標

# 御菓子司 常盤堂

神戸市東灘区御影中町  
(国道中御影電停上ル)  
電話神戸 (851)4677番

---

コーヒー、紅茶とフレッシュなケーキ等  
バラエティ豊かなおもてなしを致します

## Morozoff CHOCOLATE SHOP

モロゾフセンター街ショップ  
三宮サンプラザビル1F

5/初  
5/15 末  
5/末  
6/7 王  
6/22 日  
7/6 日  
7/末  
11/  
12/

旧三商大合同発表会 (一橋大、市大、神大)  
於朝陽会館  
新一年生歓迎ハイキング  
強化合宿 二年生主催  
新一年生歓迎コンパ  
学連春季発表会  
於大槻能楽堂  
四大学合同発表会  
夏合宿  
秋季発表会  
於神大 学館ホール  
学連秋季発表会  
クリスマスコンパ

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

お食事とお茶は当店で！

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

# ヴィオレッタ

席数 60席      TEL 841-9550

# 伝 言 板

(四十九年)

山本 秀人氏 (昭和47年卒)  
岩本 美代子さん (昭和46年卒)

御結婚

・風韻会にも女性上位の波!

風韻会もついに女子部員が男子部員数を上廻ってしまふ

1男 十名、女十二名!

・紋付き⑤袴⑩大学より支給!

袴馬のりでなくスカートのため使用方法に苦しむ

・幹事長49年度より一月交代決定!

・長沢洋一氏五洋建設に就職決定!

・教育学部の風韻会支部取り払う!

鍋物・一品料理

コンパ…… 4名様より 40名様OK

—  
松

六甲くみあいマーケット前

TEL (078) 821-4859



編集後期

「風韻」第十五号をお届け致します。発行に当り、原稿をお寄せ頂きました皆様方にまずもって深く御礼申し上げます。

活字ばかりになりがちであった従来のもを少し読みやすくしようと努力いたしました。「先輩登場」「誌上研究室」等、ここ二年間とだえていたものを復活させた所もあり、又新しく工夫をこらした所もあります。

学連の委員長をやっていた時に、雑誌を作らせたことはあるのですが、自分で作るのは今回が初めてのことでした。原稿があつまらず頭にきた事もたびたびありましたが、編集をやっているうちに、時として夢中になってしまっていることもありました。雑誌の編集とは凝り始めたら大変なものだ、というのが私の感想であります。「風韻」は諸先輩の皆さまと現役クラブ員との数少ない対話の場であります。絶えがちな諸先輩の皆さま相互を、又現役部員との間を結びつけるものであります。大いに御利用していただきたいと思えます。

折々に山の彩り眺むれば

六甲の山と思いきるかも

編集委員長 寺本 博行

雑誌からコピー印刷まで……

昭和50年 2月28日 印刷  
昭和50年 3月1日 発行  
発行所 神戸大学 風韻会  
神戸市灘区六甲台町  
印刷所 みなと出版印刷株式会社  
神戸市灘区浜田町2丁目5の3  
電話 821-8331(代)

みなと出版印刷(株)

阪神新在家下車東150米高架下12-11  
TEL.(078)821-8331代

コトブキ 三宮ビルでデッカクやろう!!



コンパ、お友達との  
パーティ等あらゆる  
ご会合、ご宴会にコ  
トブキ三宮ビルをご  
利用ください。

|        |               |
|--------|---------------|
| 6<br>F | 大小宴会場         |
| 5<br>F | すき焼<br>しゃぶしゃぶ |
| 3<br>F | お座敷焼肉         |

ご宴会のお問い合わせは外商課(宴会係)まで

コトブキ三宮ビル  
阪急三宮西口 TEL.(078)391-8681